

# えびの市教育研究センター

I	研究主題と副題	8-1
II	主題設定の理由	8-1
III	研究の概要	8-1
1	研究の目標	8-1
2	研究の仮説	8-1
3	研究の内容	8-1
4	研究の全体構想	8-2
5	年間計画	8-3
IV	研究の実際	8-3
1	市の実態把握	8-3
2	「キャリア教育の視点に立った『学びの基本』づくり」の基本的な考え方	8-4
3	各研究班の取組	8-4
	(1) 理論研究班	
	(2) 実践研究・学習班	
	(3) 実践研究・生活班	
4	試行期間の実践例	8-8
	(1) 理論研究班	
	(2) 実践研究・学習班	
	(3) 実践研究・生活班	
V	成果と課題	8-10
1	成果	
2	課題	
◇	引用・参考文献	8-10
◇	研究同人	8-10

## I 研究主題と副題

### 確かな学力の定着と地域に貢献する人材の育成 ～キャリア教育の視点に立った「学びの基本」づくりを通して（1年次）～

## II 主題設定の理由

今日、日本は、グローバル化、情報化が急速に進行し、著しく変化している。その変化の中にある小・中学生は、今後ますます自主性や判断力を迫られる状況にあると見てよい。

本市は、県西部に位置し、稲作や畜産などの豊かな霧島山麓の恵みに囲まれた環境にある。学校は、地域に支えられて教育活動を展開しており、それが今年度、上江地区学校支援地域本部の学校支援活動が文部科学大臣賞受賞にもつながった。また、第52回農林水産祭において、えびの市田代自治会が天皇杯を受賞するなど、地域を大切にする風土が今も息づいている。

本市は高齢者の割合が高くなっている一方、児童生徒数は緩やかな減少傾向を示している。児童生徒は、地域社会に見守られながら成長しているが、十分な自主性や自立心の醸成には至っていない。また、児童生徒数の減少は、人間関係の固定化・希薄化につながり、思考力や表現力を基盤としたコミュニケーション能力の向上にも影響を及ぼしている。

このような課題を解決するためには「宮崎県キャリア教育ガイドライン」に示している基礎的・汎用的能力の育成が不可欠である。児童生徒の将来像である「自立した社会人・職業人の育成」に資するためには、キャリア教育の視点に沿った研究を進めていくことが大切である。

そこで、市教育研究センターでは、市の学校教育目標「徹底した学力の向上と地域に貢献する人材の育成」の実現に向け、まずはその原点に立ち返り、「学びの基本」ともいうべき「基本的な生活習慣」と「基礎学力」を確実に定着させることから、さらに実践的な研究を進めていくこととした。その際、キャリア教育の視点及び各学校の実態や実践に基づき、「学びの基本」づくりに関する指導方法を見直しながら、市内全小・中学校で共通の取組を行うことで、本市のかかえる課題解決の糸口になると考えた。

以上の考え方に基づき、本研究主題・副題を設定した。

## III 研究の概要

### 1 研究の目標

- 児童生徒の実態に即して、基本的な生活習慣と基礎学力を身に付けさせるための具体的な取組や市内共通実践に向けての道筋を探究する。

### 2 研究の仮説

【仮説1】市内児童生徒の実態に基づき、学習面・生活面における重点実践事項を明確にし、キャリア教育の視点に立った具体的な共通実践を行えば、児童生徒の自ら学ぶ意欲が高まり、基本的な生活習慣と基礎学力の定着につながるであろう。

【仮説2】市内共通実践の効果的な方法を探究すれば、各学校の実態に応じた実践に結び付き、基本的な生活習慣と基礎学力の定着につながるであろう。

### 3 研究の内容

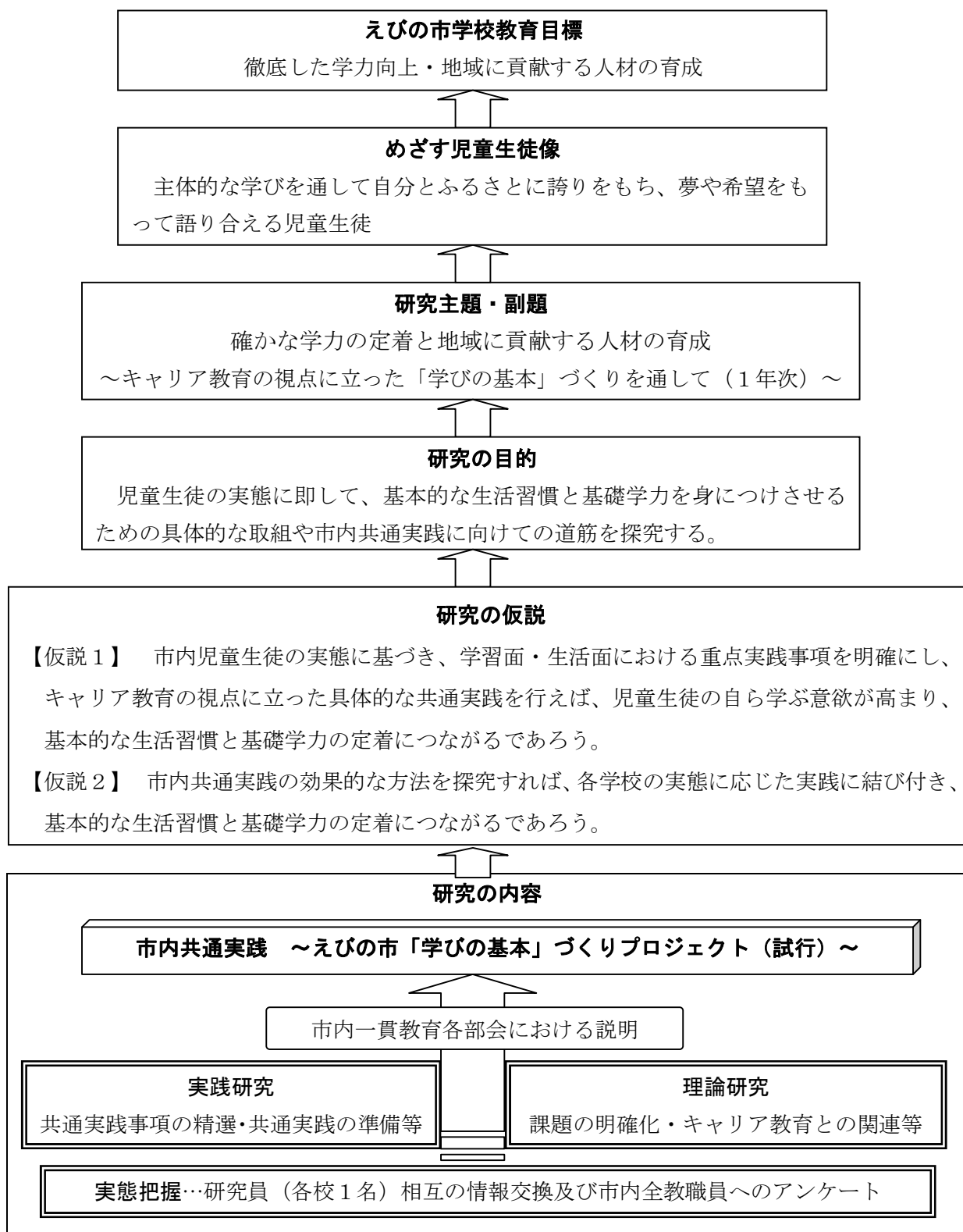
- (1) 1年次：○市内児童生徒の学習・生活面における実態把握 ○研究の方向性の決定

○研究の理論構築 ○研究内容・方法の決定 ○研究内容・方法とキャリア教育との関連および効果的な実践方法の決定

(2) 2年次：○望ましい言語環境づくり ○言語活動の工夫・改善

(3) 3年次：○自分とふるさとに誇りをもち夢や希望をもって語り合える力の育成

#### 4 研究の全体構想



## 5 年間計画

月	研究内容	月	研究内容
6月	研究の方向性の検討	11月	各学校での実践
7月	研究内容・研究方法決定	12月	実践を通しての検証とまとめ
8月	実態把握・キャリア教育との関連・効果的実践方法の選り出し等	1月	まとめ（研究紀要）の作成
9月	具体的実践に向けての準備	2月	発表準備
10月	各学校での実践（2学期より）	3月	反省及び次年度の計画

## IV 研究の実際

### 1 市の実態把握

3年間を見通した研究を進めるにあたって、まず、市内全小中学校の代表である研究員により、市内の児童生徒の実態及び効果的な教育実践に関わる情報交換を行った。さらに、市内全教職員を対象にアンケートを実施した。下はそれを集約した結果である。

#### <本市の小中学校の実態>

※ No.は順位を、( )内の数字は選択した人数（その取組を取り上げた人数）を表す。

※ 四角囲み・網掛け部分は、今回取り上げる実践や、実践を通して身に付けさせたい力を表す。

#### 【学習面】

特に指導が必要と思われる力	特に成果が感じられた取組内容
No.1… <b>主体性</b> (33)	①学習の達成感… <b>漢字文字力向上テスト</b> ・学力向上テスト等(9)
No.2… <b>思考力</b> (31)	②読書活動…読み聞かせ(8)、読書貯金通帳・ <b>読書ビンゴ</b> ・読書賞等(6)
No.3… <b>表現力</b> (28)	③教育課程の工夫…朝や業間、放課後等の時間におけるドリル(8)・Webテストの活用等(4)

#### 【生活面】

特に指導が必要と思われる力	特に成果が感じられた取組内容
No.1… <b>基本的な生活習慣</b> (53)	①授業に対する構えづくり… <b>立腰指導</b> (13)、 <b>チャイム黙想</b> (13)
No.2… <b>自主性・自立心</b> (35)	②あいさつ・返事…あいさつ運動の実施(5)、 <b>語先後礼</b> (4)、返事の常時指導・ <b>こまめな声かけ</b> ・ <b>繰り返し指導</b> (4)
No.3… <b>思いやり・協力</b> (22) No.3… <b>勤労・奉仕</b> (22)	③時間を守る… <b>チャイムと同時の授業開始</b> ・ <b>清掃前のチャイム黙想</b> (6)

<キャリア教育> ※特に成果が感じられた取組内容

- **今の学習と将来とのつながりの意識化**(5)
- 勤労体験・職場体験の充実・勤労観の醸成(5)

<言語活動>

- 各教科で自分の考えを図や文で書き、友達に説明する(ペア・グループ・全体での練合い)活動(10)
- 集会活動・集会での発表(6)
- **スピーチ・1分間スピーチ**(6)

## <えびの学>

- コーディネーター・地域人材（学校支援ボランティア含）の活用（7）
- **えびの市の良さを実感できる活動**・インターネット検索等（7）
- えびの米配布活動（7）
- えびの自然・歴史・伝統の素晴らしさに関するスピーチ（6）

研究員による協議と上記のアンケート結果より、児童生徒の学ぶ意欲を高めつつ、えびの市の学校教育目標の実現へと繋がり得る学習の基盤としての「学びの基本」、すなわち「基本的な生活習慣」と「基礎学力」を身に付けさせる指導の在り方を再度見つめ直し、確実に定着させていくことの重要性がより明確になってきた。

以上の結果を受けて、実践事項を精選し、市内共通実践として取り組んでいくこととした。

## 2 「キャリア教育の視点に立った『学びの基本』づくり」の基本的な考え方

本研究を進めるにあたって、最も大切にしたい視点は以下の2点である。

- ① いかにして、将来に向けての夢や希望をもって意欲的に学ぶ児童生徒を育成するか。
- ② いかにして、確かな学力の定着へとつながる「学びの基本」を児童生徒に身につけさせるか。

これは、各学校や児童生徒の実態に基づき今年度以降の研究の方向性を協議する中で、児童生徒が着実に自己実現し、幸せに生きる力を身に付けさせる意味からも、再度、学びの原点に立ち返った実践的研究を進めていく意思を研究員全員で共通認識したことに基づく。

①に関しては、児童生徒の主体性の不足が指導における一番の課題だとするアンケート結果にも基づく視点で、指導の在り方をキャリア教育の視点から再度捉えなおすこととした。このことは、自分自身や、自分を取り巻く地域に対して誇りをもつ児童生徒の育成につながると考える。

②に関しては、3年間の継続研究の初年度として、まずは学習の基盤ともいえるべき「学びの基本」として、基本的な生活習慣と基礎学力を効果的に身に付けさせることを主な研究内容とすることとした。

特に本研究においては、児童生徒の主体性を高める意味からも、②の指導にいかにして①の視点を融合させるかを大切にしたい。例を挙げれば、「挨拶」をすることが将来の自分にとってどのように生きて働くのかを、児童生徒自身が認識しながら進んで「挨拶」を行えるようになる等である。

このような考え方を基本として、本研究を進めていくこととした。

## 3 各研究班の取組

本研究は3年間を見通した研究であるため、研究の方向性が明確になるまでは、できる限り全体での協議の時間を多く設定し、研究員全員が同じゴールイメージ（3年後の児童生徒の姿や児童生徒の望ましい将来像）をもてるよう配慮した。研究の方向性が明確になった後は、班ごとの研究の時間を多めに設定し作業の効率化を図ったが、必ずその前後に全体会を設定することで共

通理解を図ってきた。以下は、各研究班で進めてきた研究内容である。

## (1) 理論研究班

### ア 実態把握に基づく重点実践事項の設定とキャリア教育との関連

研究の方向性が明確になった後、市内全小・中学校での共通実践が望ましい重点実践事項の精選を行った。その結果、学習面、生活面から各3項目を選び出した。その後、実践研究班の学習班、生活班により、効果的な実践方法を洗い出す作業へと移行した。特に理論研究班においては、重点実践事項と本研究の基盤となるキャリア教育との関連を、系統表（別紙資料①参照）を作成しながら整理した。その際、児童生徒が、将来の自分に生きる力を具体的にイメージしながら学習したり活動したりできるよう配慮した。

### イ 共通実践に向けての道筋

共通実践における理解をより広く得て、実践しやすくすることを主な目的として、共通実践を以下のような流れで行うこととした。

＜市内共通実践（試行）までの流れ＞

- ① 「学力向上推進員部会（各校教務主任による会合）」における説明
- ② 「えびの市立小中学校長会」における説明
- ③ 各学校における説明

特に①・②の会合においては、研究員の代表が、本年度の研究の進捗状況と市内共通実践についての説明を行い、その目的等を理解してもらうことで共通実践に向けての協力が得られるよう配慮した。

その結果、双方の会において今後の研究に大いに参考となる貴重な意見が出され、市教育研究センター研究会において報告・協議したこと（別紙資料②参照）を各学校における説明会に生かせるように配慮した。

## (2) 実践研究・学習班

### ア 学習の達成感を味わえる取組

#### (ア) 目的

学習の達成感を味わえるような漢字学習を行い学習意欲の向上と漢字の定着を図る。

#### (イ) 具体的な手立て

小学校1年生から中学校まで、各学年の新出漢字をもとに小テストを市教育研究センターで作成した。小学校用のテストは、国語の教科書の新出漢字を順番に、中学校用のテストは、高校入試で問われやすい漢字を中心に作成した。

#### a 小学校での取組

- ① 新出漢字を教科書やドリルで学習する。
- ② 小テストで力試しをする。
- ③ 自己評価として、「覚えた漢字カード（P8-9資料2参照）」に色をぬり、「漢字練習の成果（P8-9資料3参照）」にテストの結果を書き込む。
- ④ 再テストなどをして、覚えた漢字に色をぬる活動を繰り返す。

b 中学校での取組

- ① 「入試に出る漢字リスト（別紙資料③参照）」を用いて課題や家庭学習に取り組ませる。
- ② 小テストで力試しをする。
- ③ 「漢字練習の成果」にテストの結果を書き込む。
- ④ 小テストとやり直しを繰り返し、定着を目指す。

c 漢字の定着が困難な児童生徒への取組

- ① 漢字の一部を抜いたもの（P 8－8 資料 1 参照）で練習する。
- ② 家庭学習などで練習する。
- ③ 白紙の小テストで力試しをする。
- ④ 自己評価として「覚えた漢字カード」に色をぬる。

## イ 読書活動の工夫

(ア) 目的

読書意欲を高め読書の幅を広げる工夫を行うことで読書活動の更なる活性化を図る。

(イ) 具体的な手立て

a 読書ビンゴカードの活用

- (a) 学年ごとのビンゴカードで読書ビンゴに取り組む。（別紙資料④参照）
- (b) 教師や児童により、「おすすめの本」を記入したビンゴカードで読書ビンゴに取り組む。（別紙資料⑤参照）

## ウ 週時程を工夫した取組

(ア) 目的

朝の会、業間、帰りの会等において、短時間でのスピーチや話し合い活動を行うことで、コミュニケーション能力の基盤づくりを行う。

(イ) 具体的な手立て

a テーマを工夫したスピーチ活動

- (a) 自由テーマでスピーチを行う。
- (b) 学年や発達段階に応じて、課題テーマを与えてスピーチを行う。

【課題テーマの例】

我が校紹介／えびののおすすめの場所／えびの自慢 等

b 新聞や本を活用した 1 分間スピーチ活動

- (a) 新聞記事や本からテーマを選んで発表し、感想を述べ合う。

## (3) 実践研究・生活班

### ア 立腰指導について

立腰論は、森信三氏によって提唱された。立腰とは、腰骨を立てることである。身体の肝心かなめは腰にあり、そこをまっすぐ立てることで心もまっすぐになり、集中力・持続力が身に付くということである。

そこで、正しい姿勢を身に付けることによって、学習に対する集中力や意欲を高めることをねらいとし、立腰指導に取り組むことにした。

(7)正しい姿勢とは

- ①いすをしっかりと前に引く。
- ②しりを思い切り後ろへ突き出す。
- ③反対に腰骨はグッと前へ突き出す。
- ④足の裏を床にピタリと付ける。
- ⑤へその下あたりに力を入れる。
- ⑥あごをひき、肩の力を抜く。

(4)指導方法

- ①学級活動等において「立腰」の目的や方法等についての理解を深める。
- ②授業の始め、終わりの号令の時に、立腰の姿勢を意識づける。
- ③教室に資料を掲示し良い姿勢への意識を高める。
- ④機会あるごとに称賛を重ね、意欲を高められるようにする。

## イ 黙想について

(7)ねらい

時間のけじめを付けさせ、休み時間から授業への気持ちの切り替えをしっかりとさせ、落ち着いた雰囲気をつくる。

(4)指導方法

- ①すべての教師で指導・援助を行う。教師自身も、2分前行動を実践する。
- ②係の児童生徒（日直、学習部など）が「着席、黙想」の声かけを行い、姿勢を正して黙想ができているか点検を行う。係の児童生徒だけでなくクラス全員で徹底できるようにする。

## ウ あいさつ

(7)ねらい

教師や同じクラスの児童生徒に対して「本時の授業をみんなで協力して作っていこう。」という思いをもたせ、授業のより良い雰囲気づくりを行うとともに、感謝の気持ちをもって授業を終える。

(4)指導方法

- ①大きな声で行わせ、あいさつの声が小さければ、繰り返し指導する。
- ②児童生徒の発達段階に応じて、語先後礼でしっかりできたかについて、係の児童生徒（日直、学習部など）や教師が確認する。

## エ 具体的実践方法

代表児童生徒による号礼のかけ方として、基本となる話型表を作成した。

<基本的な進め方（授業前）>

- ① 1分前、もしくはチャイムで立腰・黙想をする。
- ② 開目をし、授業始まりのあいさつをする。



[掲示資料1]

りつよう	
立腰のよいこと十か条	
1	やる気が起こる
2	集中力が出る
3	持続力がつく
4	頭がさえる
5	勉強が楽しくなる
6	成績もよくなる
7	素早く行動できる
8	バランス感覚が良くなる
9	内臓の働きが良くなる
10	姿勢が良くなる

[掲示資料2（低中学年用）]



<授業前の号礼>

小学校低学年向け	小学校中学年～中学校向け
「いすをしっかりと前に引きましょう。」 「グウ」・・・深く腰かける。 「ペタ」・・・足裏を床にペタッと付ける。 「ピン」・・・いすにもたれず背筋を伸ばす。 「手はひざの上に置きましょう。」	「立腰」
「目を軽く閉じましょう。」	「黙想」
「目を開けてください。」	「開目」
<あいさつ> 「これから ○時間目の学習を始めます。礼」「よろしくをお願いします。(一斉)」	

<授業後の号礼>

- 授業終わりのチャイムが鳴ったら、立腰をし、授業終わりのあいさつをする。

小学校低学年向け	小学校中学年～中学校向け
「いすをしっかりと前に引きましょう。」 「グウ」・・・深く腰かける。 「ペタ」・・・足裏を床にペタッと付ける。 「ピン」・・・いすにもたれず背筋を伸ばす。 「手はひざの上に置きましょう。」	「立腰」
<あいさつ> 「これで ○時間目の学習を終わります。礼。」「ありがとうございました。(一斉)」	

#### 4 試行期間の実践例

##### (1) 理論研究班

市内一貫教育各部会等において出された意見に基づき、共通実践における次のような工夫・改善を行った。

- 共通実践事項ごとに担当者を決めてもらうことで、より組織的な取組を行った。
- 担当者に関しては各校の実態に応じ、できるだけ校務分掌を生かすよう配慮した。

##### (2) 実践研究・学習班

###### ア 小テストによる力試し

小テストを活用することで、漢字の習得が少しずつ図られている。A小学校は試行期間（12月）に、小テストを活用し1学期に学習した漢字を復習した。児童は、忘れていた漢字を中心に復習することで、効率よく漢字を覚えることにつながっている。

###### イ 漢字の習得が困難な児童生徒への手立て

漢字の習得が困難な児童生徒へは、漢字の一部を抜いたプリント(資料1)で練習させ、定着を目指している。

5 コ ウ ス イ 確 率	4 カ タ ガ ワ 通 行	3 ハ イ ケ イ を 描 く	2 ツ ウ ヤ ク に な る	1 ヨ ウ チ ユ ウ を 育 て る	番 問
水	イ	北	日	山	解 答

ヒント ( ) 小 ( ) 年  
えびの市小学六年生の漢字

資料1 【漢字の一部を抜いた練習プリント】

このプリントを使うと、漢字を覚えることが苦手な児童生徒にとっては、漢字の一部がヒントとなり漢字を書けた（もう少しで書ける）という達成感が味わいやすくなる。さらに、書かれた漢字の一部が漢字の構成を理解することにも役立っている。

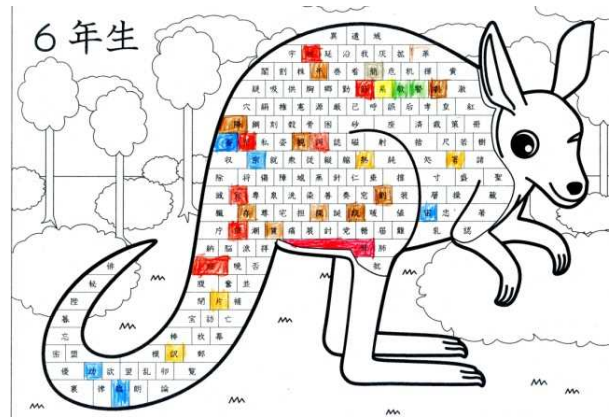
このプリントを使って練習することで、今まで漢字への苦手意識が強かった児童生徒も、意欲的に漢字学習に励むようになった。

ウ 自己評価カード

小テストで合格した漢字は、カード（資料2）に色を塗り、どれだけ覚えたかを一目で確認できるようにしている。また、小テストの結果を「漢字練習の成果」（資料3）に記録し、自分の成長をみることができるようにしている。

これらの手立てを通して、児童からは、「これだけの漢字を覚えることができた。」や「次は、満点が取れるように、もっと練習しよう。」など、意欲的な発言が聞かれるようになった。

漢字練習の成果を残し、自分の目で常に確認できるようにしたことで、学習の達成感や満足感につながっていると考えられる。



資料2【覚えた漢字カード】



えびの市小学生 漢字練習の成果

( )年( )組( )番  
氏名( )

期	回	日時	曜	かき	得点	サイン
第1期	第1回	12/9	月	1 ~ 10	8点	
	第2回	12/13	金	11 ~ 20	9点	
	第3回	12/17	火	21 ~ 30	10点	
	第4回	1/1	火	31 ~ 40	10点	
	第5回	1/9	木	41 ~ 50	10点	
	第6回	1/14	火	51 ~ 60	10点	

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.

資料3【漢字練習の成果】

(3) 実践研究・生活班

ア 授業に対する構えづくりについて

○ 実践1 (B小学校)

今回、市教育研究センターの共通実践に伴い、「授業に対する構えチェック表」を使って自己評価を実施した。自己評価を行わせることで、普段意識が低かった児童に変化が見られ、学級全体でも意識が高まった。

(児童の感想)

- ・ 前より◎がふえたのでうれしかった。がんばった。
- ・ 黙想と立腰がすぐにはできていなかったのので、授業の準備を休み時間中にしっかりとしておきたい。
- ・ 立腰を長くできるように、これからもがんばりたい。

○ 実践2 (C中学校)

「学習環境の整備、落ち着きのある学習態度の形成及び学習意欲の向上」「計画的な家庭学習の実践」「テストの受け方の確認」を目的とし、年間6回の学習態度確立週間を設定している。その中で、委員会活動の取組として1分前着席、チャイム黙想、私語ゼロのチェック活動に取り組んでいる。

今回、市教育研究センターの共通実践に伴い、チェック項目に「立腰・あいさつ」を追加した(右記資料参照)。また、これまでの委員会活動では、クラス代表が教室の前でチェックしていたが、今回は個人チェックを行った。個人でチェックカードに記入することで、一人一人の意識に変容が見られたようである。

	12/18 (水)	12/19 (木)	12/20 (金)
1 1分前着席	○	○	◎
チャイム黙想	○	○	◎
立膝・あいさつ	○	○	◎
私語ゼロ	○	○	◎
2 1分前着席	△	○	◎
チャイム黙想	○	△	◎
立膝・あいさつ	○	○	◎
私語ゼロ	△	△	◎
3 1分前着席	○	○	◎
チャイム黙想	○	○	◎
立膝・あいさつ	△	△	◎
私語ゼロ	○	○	◎
4 1分前着席	○	○	○
チャイム黙想	○	○	○
立膝・あいさつ	○	△	◎
私語ゼロ	△	△	△
5 1分前着席	◎	○	○
チャイム黙想	◎	○	○
立膝・あいさつ	○	△	○
私語ゼロ	△	△	○
6 1分前着席	*	○	◎
チャイム黙想	*	○	◎
立膝・あいさつ	*	○	◎
私語ゼロ	*	○	◎
◎の合計	1	0	4
○の合計	1	0	3
△の合計	1	0	2
◎の合計	1	0	2

◎・・・よくできている ○・・・できている △・・・もう少し

(生徒の感想)

- ・ ◎がたくさんあり、よかったです。また、だんだん増えていっているのもっと増えるよう、がんばりたいです。
- ・ 1分前着席がよくできたので次は毎時間できるようにしっかり時計を見たいです。
- ・ 最初は全然できていなかったけど、だんだん意識するようになってきたのでチェックなしでできるようにしたいです。

## V 成果と課題

### 1 成果

- 市内全教職員を対象としたアンケートを実施することで、児童生徒の実態に即した共通実践事項を精選することができ、教職員の指導する意識が高まった。
- キャリア教育との関連を見出すことで、児童生徒が夢や希望をもって学ぶための手立てを講じることができた。
- 各専門委員会との連携を図って共通実践に向けての理解を図ることができた。

資料 (授業に対する構えチェック表 [C中学校])

### 2 課題

- 3ヶ年を見通した研究計画に時間を要したため、共通実践 (試行) に遅れが出た。
- 今後、試行期間における実践例やアンケート結果を生かし、さらに有効な共通実践方法を提案していく必要がある。

### ◇ 引用・参考文献

- ・「宮崎県キャリア教育ガイドライン (平成25年1月/宮崎県教育委員会)」
- ・「小学校キャリア教育の手引き (平成22年1月/文部科学省)」
- ・「平成22年度 宮崎県体力向上推進委員会資料」
- ・「特別支援教育 はじめのいっぽ 国語の時間 (平成25年4月/株式会社 学研教育みらい)」

### ◇ 研究同人

所 長	萩原 和範 (えびの市教育委員会教育長)	研 究 員	岡 浩子 (えびの市飯野小学校教諭)
主 幹	堂 蘭 充郎 (えびの市教育委員会主幹)	研 究 員	柗山 晶美 (えびの市立加久藤小学校教諭)
指 導 主 事	川 崎 昌彦 (えびの市教育委員会指導主事)	研 究 員	鶴 田 恵 (えびの市立加久藤小学校講師)
主 任	高 橋 慎一郎 (えびの市立岡元小学校教頭)	研 究 員	長 友 伸二 (えびの市立上江小中学校教諭)
班 長 (理論研究)	押 川 博重 (えびの市立上江小中学校教諭)	研 究 員	神 井 恵 (えびの市立加久藤中学校教諭)
班 長 (実践研究・学習)	坂 本 美香 (えびの市立真幸小学校教諭)	研 究 員	鳥 原 三紗子 (えびの市立真幸中学校教諭)
班 長 (実践研究・生活)	小 野 雅 樹 (えびの市立飯野中学校教諭)		